

2012年10月2日開催 第572回 番組審議会

■ 出席委員

荒巻裕委員長 櫻井美幸副委員長 上田理恵子委員 佐藤卓己委員
佐藤友美子委員 東野博昭委員 若菜英晴委員

■ 毎日放送出席者

松島専務、榎本常務、河村取締役、梅本取締役、東取締役
立野コンプライアンス室長、柚山ラジオ局長、藤沢編成局長、井本プロデューサー

◆ 審議事項

(1) 報告事項

- ①ラジオ・テレビの10月改編の概要と特徴について、ラジオ局長と編成局長がそれぞれ報告した。
- ②「放送番組の種別」について、平成24年度上期6か月分の番組種別毎の放送時間とCM総量および10月改編の基本番組表の番組種別を編成担当取締役が報告した。

(2) 劇場用映画「生き抜く～南三陸町人々の一年～」について

東日本大震災発生から宮城県南三陸町に入ったMBS取材班のこれまでの取材記録が劇場用映画になった。映画の公開に先立ち、審議会委員に視聴いただき、意見を交換した。

各委員の主な意見は次の通り。

(テレビの改編報告を受けて)

- ・家族がみんなで楽しみたいのはバラエティー番組なんだろうかという素朴な疑問を持つ。
- ・40代とか50代の親世代とか、そのすこし上の世代が見るに値する番組のほうか、家族の集まる放送のコンテンツじゃないのか。

(劇場用映画「生き抜く～南三陸町人々の一年～」について)

- ・希望ばかりでもない現実を直視するのは、見るほうにとってものすごくつらい。大事なことは、どうすればわざわざ足を運んでもらい見てもらうことが

できるか。

- ・テレビ局がつくる映画というのは、もう少しテレビ的であってもいいんじゃないのか。こういうテーマなので、通常の映画とは違う作り方もある。
- ・テレビではずっと流れてしまうところを、考えさせるという意味では、ナレーションがないのも1つだし、映像の時間の長さも非常によかった。
- ・見た後にもものすごく重く考えさせられ、ずっと残ってしまった。何かアクションにつなげないといけないと、すごく反省させられた作品。
- ・よく考えられたいい映像を撮っていて、押しつけではない映像と事実で勝負して、見ている人に迫るといのは新しい手法だと思う。
- ・被災地から遠く離れて住んでいる人々であればあるほど、見てもらいたくなるドキュメンタリー映画だ。

以上